

ひこうき



ひこうき



さくえ たかはしひろみ

ぐしゃ！

やっぱり ダメだ。

ぼくは もう なんかいめかも
わからない ためいきをついた。

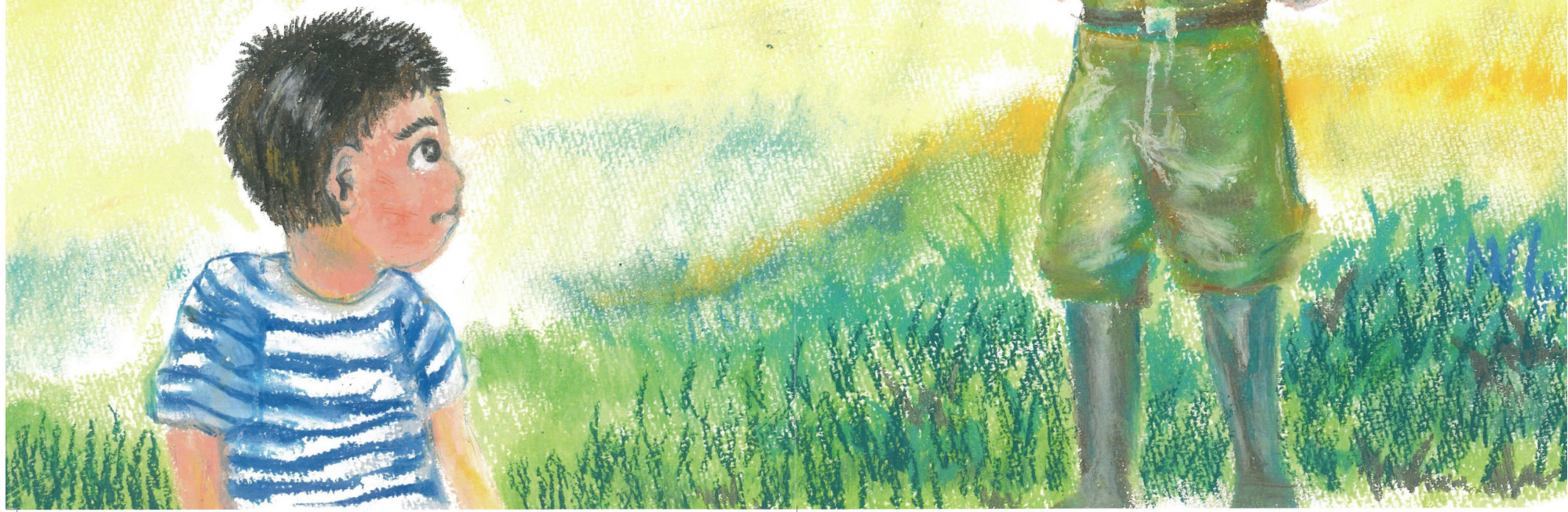
ぼくの なげたひこうきは、
すぐ あたまのうえで ちゅうがえりして
じめんに たたきつけられた。



「なんで うまくとばんのやろ。」
ぼろっと なみだが ながれそうになった
そのとき、

「そのひこうきじゃ とばねーさ。」

うしろで こえがしたから びっくりして
ふりかえると、おっちゃんが ひとり たっていた。
ぼくの とうちゃんと おなじくらいのとしだけれど
しゃべりかたは このへんのひととは
ちょっと ちがうきがする。



「この はねがなあ ねじれてんだ。」

おっちゃんは ぼくのひこうきを ひろいあげて
せつめいを はじめた。

ひこうきは なんかいも つिरくしたせいで
はねが やぶれてしまった。

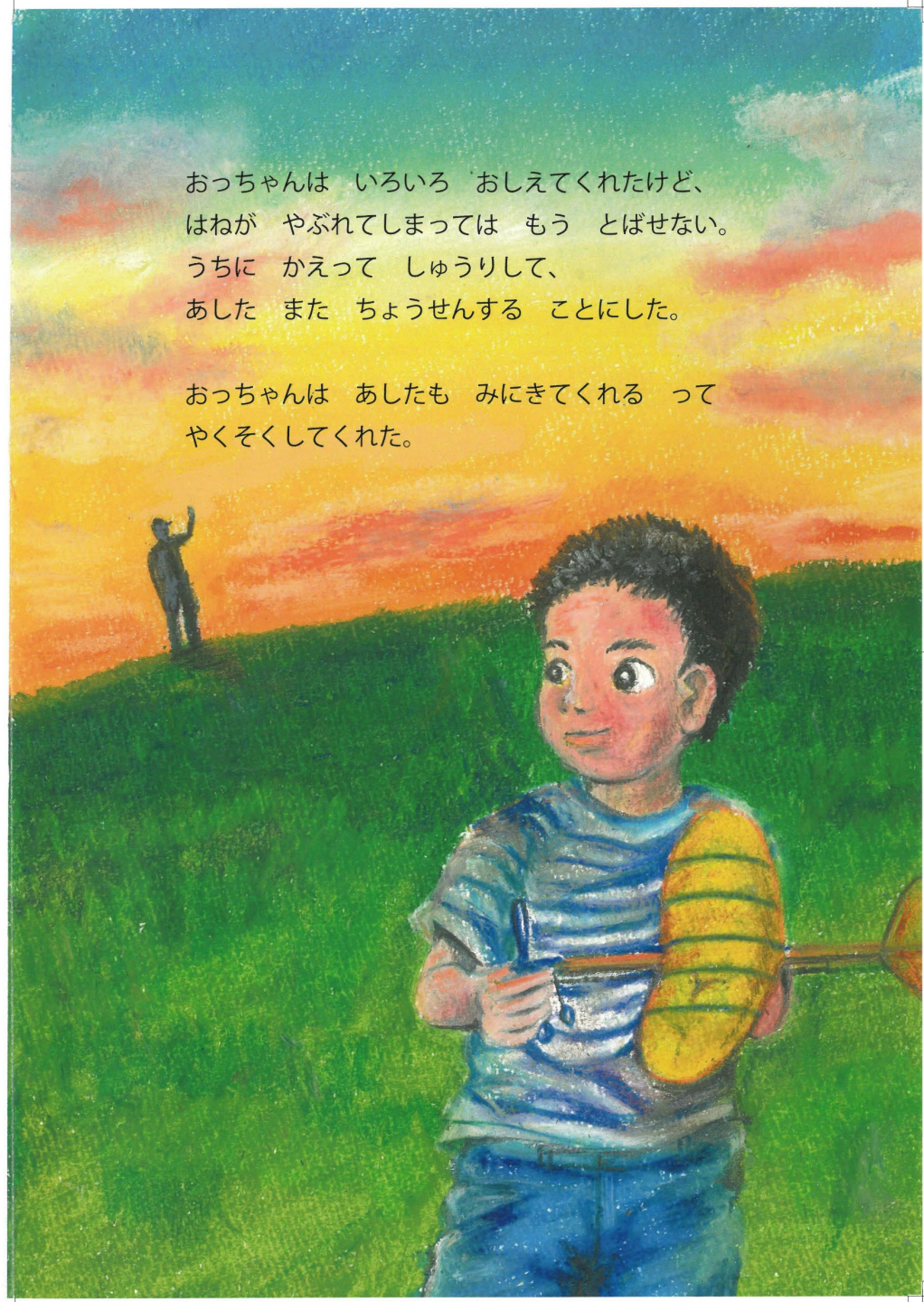
「おっちゃん ひこうき くわしいん？」

ぼくは おっちゃんに とばしかたのコツを
おそわりたい とおもった。



おっちゃんは いろいろ おしえてくれたけど、
はねが やぶれてしまっては もう とばせない。
うちに かえって しゅうりして、
あした また ちょうせんする ことにした。

おっちゃんは あしたも みにきてくれる って
やくそくしてくれた。



うちに かえって ぼくは さっそく
ひこうきの しゅうりに とりかかった。

はねを はりなおして
さゆうの ゆがみも なおした。
せんたんには アルミのいたを たして
すこし おもくした。

ぜんぶ おっちゃん
の アドバイスだ。



つぎのひ ぼくは ひこうきを もって でかけていった。
おっちゃんは きのうち おなじばしよで
ぼくを まっていた。

「うまぐ いったが。」

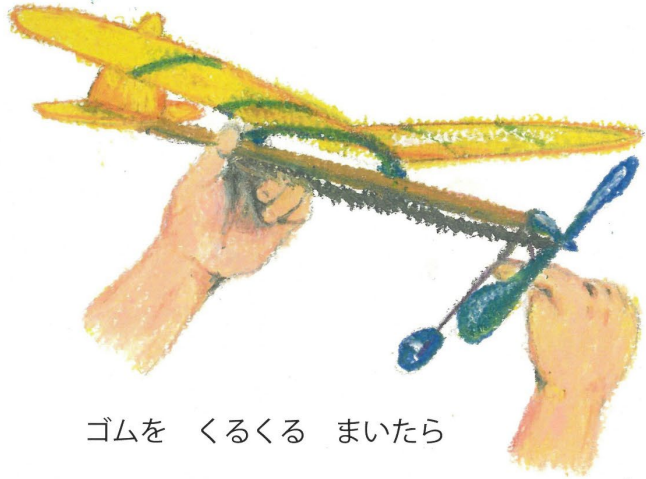
おっちゃんは ひこうきを かしてみろと てを だした。
きのうは きがつかなかった けれど
おっちゃんの うでは きのえだ みたいに
ほそかった。

ひこうきを うけとった おっちゃんは うしろの
はねを ちょこちょこっと ちょうせいして、

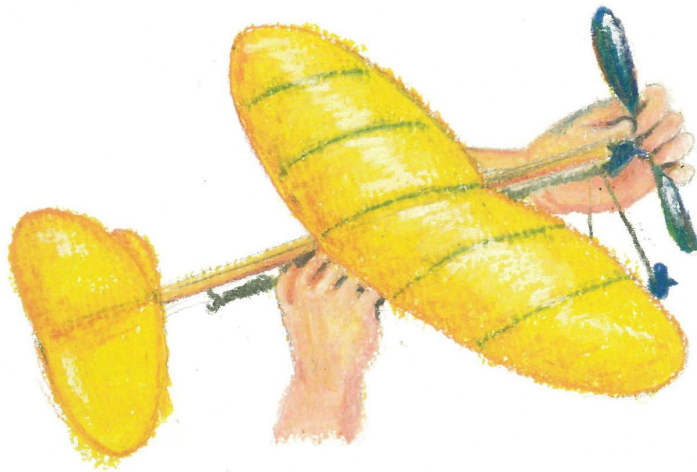
「これで ええさ。」

と、ぼくに ひこうきを
わたした。



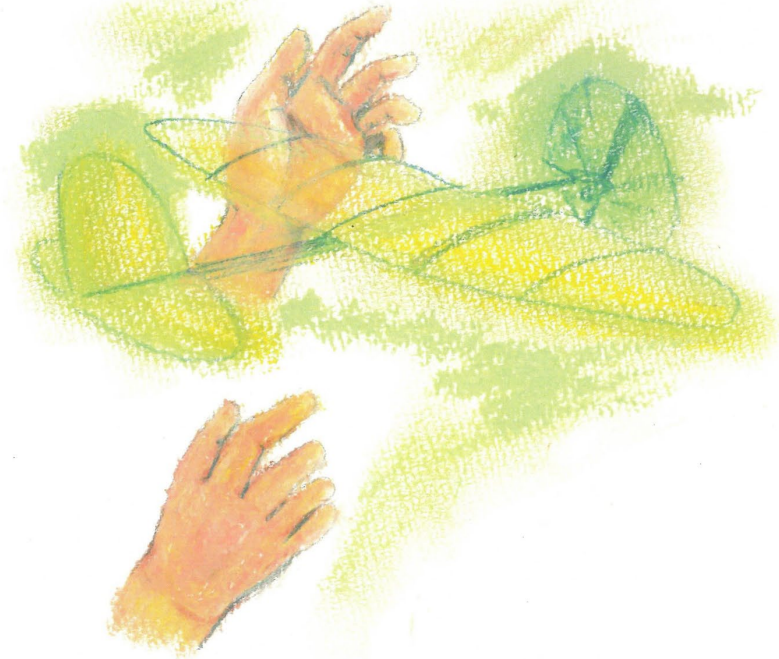


ゴムを くるくる まいたら

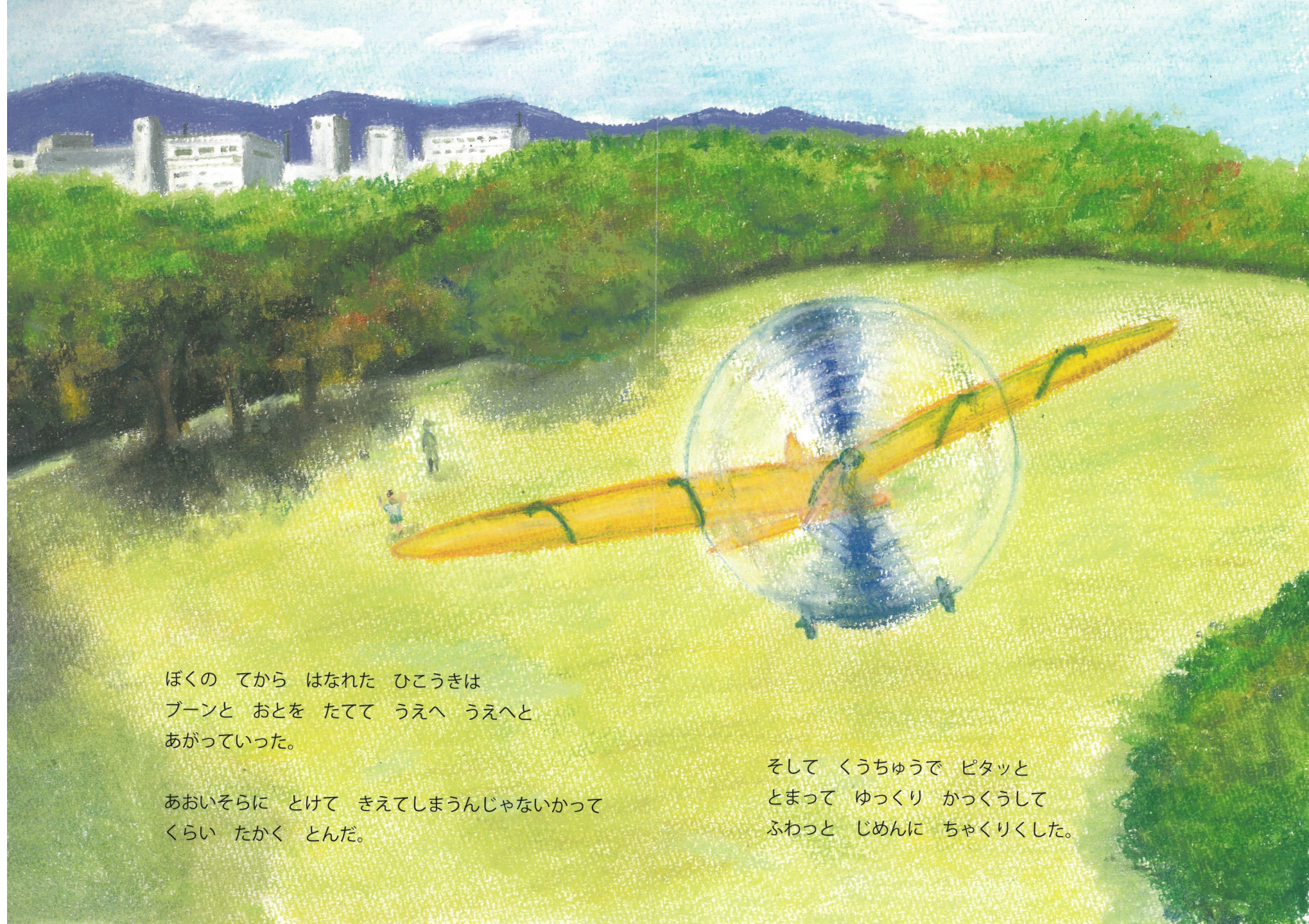


プロペラを おさえて かまえる。

「ちからいっぱい なげるんじゃね。
ふうんわり かぜに のつけるみてえに
とばすんだ。」




おっちゃんの いうとおりに とばしてみた。



ぼくの てから はなれた ひこうきは
ブーンと おとを たてて うえへ うえへと
あがっていった。

あおいそらに とけて きえてしまうんじゃないかって
くらい たかく とんだ。

そして くうちゅうで ピタッと
とまって ゆっくり かっくうして
ふわっと じめんに ちゃくりくした。

A young boy with spiky black hair, wearing a white t-shirt and dark blue shorts, is running across a vast, green field. He is looking back over his shoulder with a determined expression. The field is filled with tall grass and small white flowers. In the background, a blue sky with white clouds stretches over a distant, green hillside.

「おっちゃん！ やったで！」
ぼくは ふりかえった。

でも、そこには
おっちゃんは おらんかった。



「あんたが あったのは きっと むかし、
ここで ひこうじょう つくつとつた
へいたいさん やなあ。 あんたが ひこうき
とばしとるの みかけて、 つい
あらわれたん やろね。」

うちに かえって おっちゃんのこと
をはなしたら、 ばあちゃんが こういった。

せんそうちゅう、 ぼくたちの すむまちに
とつこうきを とばす ひこうじょうをつくる
けいかくが あったんやって。
それで、 とうほくの ほうから たくさんの
へいたいさんが あつめられたんやって。

「せんそうで なくなったひとはなあ、
わたしたちを みとるんよ。
にどと あんなこと くりかえさへんよう
に ってなあ。」

ばあちゃんが ぽつりといった。



あれから なんか ひこうきを
とばしに いったけれど、
おっちゃんには あえんかった。

ぼくは ひこうきの めいじんって
いわれるくらい じょうずに とばせるように
なったんやで。

せんそうに いく ひこうきは もう
とんでないんやで。

おっちゃんに つたえたいけどなあ。

どっかで みとってくれとるんかなあ。

